

<h3>今年度の指導の重点</h3> <p>人を愛し自然を大切に作る心豊かな人間を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協力し合う生徒 ○自立する生徒 ○創造していく生徒 ○支え合う生徒 	<h3>津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> □学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 A 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】
--	--

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 3年生一 国語A、数学Bは県平均と同程度。数学A以外は県との差が3ポイント程度に縮まっている。理科は全国・県と同程度。数学では関数が正答率が低い。国語は読む力が低いが書くことは高い。 「数量の大小関係を不等式に表すことができる。」正答率34.4%で全国に対して7.1ポイント下回っている。「具体的な場面で関係を表す式を等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる。」正答率31.2%全国に対して13.7ポイント下回っている。 2年生一 国語Aは県との差が0.7ポイント。国語B、数学A・Bは県との差が4~5ポイント。英語が県との差が6~8ポイント。国語の読むことが低い。図形や数学的な見方・考え方が力不足。英語は書くことが苦手である。 1年生一 国語A・Bとも県との差が2~6ポイント。数学Aは県との差が4ポイント。数学Bは県との差が1ポイント。基本的な計算、書くことが弱い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○あいさつをする生徒の割合は、県平均よりやや高い。 ○テレビ等の視聴時間(3時間以上)の割合は、県平均と比べやや低い。 ○読書時間(30分以上)の割合は、県平均よりやや高い。 ○家庭学習の時間(1時間以上)の割合は、県平均よりかなり低い。 ○テレビ(携帯・スマホ)ゲームの時間(2時間以上)の割合は、県平均よりかなり高い。 ○携帯電話・スマホの使用時間(2時間以上)の割合は、県平均よりやや高い。 ○計画を立てて勉強:本校62.0%(県57.0%)、自分はよいところがある:本校74.4%(県72.6%)、将来の夢や目標を持っている:本校82.7%(県74.6%)、自分のために勉強することは大切だと思う:本校99.1(県96.0)</p>

<h3>成果</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の取組を続けており、朝から落ち着いた学習環境を整えている。また、読書時間も多し。 ○授業の中で目標(めあて)提示を徹底しており、生徒がその目標達成に向けて授業を大切に受けている。 ○授業規律の徹底をしており、時間を守る、服装を整えることができています。 ○校内研修が充実しており、教科指導の改善が進んでいる。(授業ファイブをもとにめあて⇒まとめ⇒ふりかえり の意義を考えている) ○学校行事の中で生徒自身に達成感をもたせる取組を通して、自己肯定感を高める工夫をしている。 ○家庭との連携を図り、家庭からの協力を得ている。 ○ミニ学習(帰りの会前の時間)を利用して、基礎・基本の徹底を図っている。 	<h3>課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読みや基礎的な数学用語の意味などの知識について、下学年で習ったことを忘れている。 ○複雑な設問、記述式については、問題の意図を読み取れていない生徒が多い。 ○選択式、短答式の問題と比べて、記述式の問題については無解答率が高い。 ○平日・休日の学習時間は、ともに県平均より短い。 ○TVゲームや携帯電話の利用時間の割合は、県平均より高い。 ○教員の指導で、授業ファイブをもとに授業する中で、めあて⇒まとめ⇒ふりかえり のまとめ と ふりかえり を区別できていない場面がある。(研究授業などで研究)
---	--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○数学の基礎の定着	○今年度2、3学期	○全学年 数学の基礎問題の正答率を75%以上にする。	○数学の4領域(数と式、図形)を、問題データベースからプリントを作成し、ミニ学習の時間に(各領域ごと1週間程度)取り組む。確認テストを実施し、正答率を確認する。	○秋チェックを意識したミニ学習を実施したが、定期考査などとの取り組みの時期とも重なり、期待するほどの結果が得られなかった。	C			
○家庭学習の定着と充実	○今年度3月	○全学年 規定の家庭学習時間(1年80分、2年100分、3年120分)を超える割合を70%以上にする。	○生活実態調査を10月、11月、1月、2月に行い、平日の家庭学習時間を調査し、確認する。	○定期考査期間中を中心に、家庭学習への意義、意識が高まり、60分を超えての学習を定着させている生徒が増えつつある。	C			
○わかる授業づくりのための授業改善	○今年度3月	○全教員 わかる授業づくりをめざして、「中道にあった学びのスタイル」をつくる。またそのためにICT機器も活用する。(国・社・教・理・英)授業アンケートなどで検証	○岡山型学習スタンダードをベースにしなが、OJTチームを実働させ若手を中心に全職員の指導力・授業力を高め、個に応じた指導を通して、学習意欲を向上させる。	○11月に公開授業を行い、授業研究の成果や課題を共有するとともに、わかる授業の工夫をして学力を向上させることへつなぐことができています。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

<h3>小中連携の取組</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校ブロックの小学校・中学校の教務主任の会を、学期に1度程度開催して、情報交換とともに、学力向上の方策を練る。 ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○中学校定期テスト期間中に小学校児童にもTVやスマホ等の使用制限の取組(ノーメディア週間)を行う。 	<h3>保護者・地域へ理解・協力を求めること</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習のスタンダードを年度始めに家庭に配布する。さらに学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。 ○学習の手引きを年度始めに配付し、シラバスとして利用した後、5月中旬テスト後に家庭に持ち帰らせ、保護者への理解も促す。また学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。 ○ノーメディアウィークやチャレンジハッピーデーの取り組みを、チラシの配布や呼びかけにより、テスト週間中に家庭の協力を得て行う。 ○あいさつ運動(交通指導とあわせて、毎日登下校時及び月に2度ほど地域に出て)を地域や保護者とともに推進する。
--	---